第3章 伝承

震災の記憶を風化させない

今までに何度となく被害をもたらしている地震や津波。 いつ起こるか分からない災害で悲劇を繰り返さないよう、震災の記憶を形に残し、 後世に語り継いでいかなければなりません。



宮本英一さん(下永井) 震災の経験を語り継ぐ 活動をしている

伝えたいのは生きるということ

千葉県庁の土木技術者職員のOBで組織されている NPO防災千葉から、津波の経験を聞きたいと要望があ り、これをきっかけにNPO防災千葉が主催する出前授 業などで、自分の経験を話すようになりました。私は津 波で経験したことを孫に伝えなければと、震災直後から 文章などで記録に残すようにしていたため、これが役に 立ちました。これまでに県内沿岸部の小学校で話をして きました。

津波を経験して一番反省している点は、大津波警報が 出ても、堤防を超える津波は来ないと思って逃げなかっ たことです。私は昭和35年のチリ津波を経験し、津波 が堤防を超えなかった記憶がありました。震災当時も大 きな津波は来ないと考え、避難しなかったため津波に流 されてしまいました。そのため講演では、堤防を超えた 大きな津波が来たこと、津波は何度でも押し寄せること を必ず話すようにしています。講演の最後には、自分が 津波に流された経験を基に「どんなことがあっても生き ること、生きてみることを第一に考えて、これからの人 生を歩んでください」と話しています。



飯岡小で行われた出前授業



平出敏夫さん(匝瑳市) 旭市防災資料館管理人

防災資料館から震災の風化を防ぐ

旭市防災資料館の管理人になって、もうすぐ1年が経 ちます。いつ起こるか分からない津波について学び、後 世に伝えたいという思いから管理人になりました。

震災当時、私は匝瑳市の自宅にいたため、津波を直接 見たり、経験したりしていません。防災資料館に展示さ れている写真や資料を見たり、市民などから当時の様子 を聞いたりすることで、その悲惨な状況を知ることがで きました。

来館する人の中には旭市に津波が来たことを知らな かった人や、まだ生まれる前の出来事で知らない子ども たちもいます。地震はいつ起こるか分かりません。普段 から備えておくことが必要です。防災資料館を訪れ被害 の状況を知ることが、後の災害に備えるきっかけになっ てくれればと思います。悲劇を繰り返さないためにも、 見学した人に地震や津波の恐ろしさを知ってもらい、そ の人が知り合いの人へさらに伝えてくれることで、震災 が風化しないことを期待します。

旭市防災資料館

来館者数5,936人(令和元年度)

震災で津波の被害を受けた旧食彩の宿いいおか荘(現 しおさいホテル)に平成26年、市内の震災の記録を広く 伝える施設として設置。令和2年2月に展示方法がリ ニューアルされ、市内の被害や避難状況の写真展示など のほか、来館者からの質問に管理人が答え、震災と復興 状況を発信している。

休館日/月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日以降の最初 の平日)、祝日の翌日、12月29日~1月3日

開館時間/午前9時~午後5時

入館料/無料

間旭市防災資料館(☎57-6712)



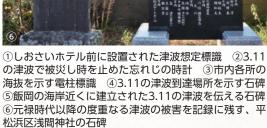












す。

2011.3.11東日本大震災 🥨 旭市飯岡津波被災の -

感地震は1万4、

500回以上 また、首都直

も続き、気象庁のまとめでは有 本大震災の余震は10年経った今 いのではないでしょうか。 の記憶が脳裏をよぎった人も多 の深夜に発生した地震で、

東日

を数えています。

があります。

も大規模な地震が発生する恐れ

下地震の発生も懸念され、

今後

ことや、 なればと思います。 記憶を未来に伝えていく機会に 知ることが、震災を振り返り、 碑と津波対策施設などの存在を 津波避難訓練などに参加する 津波の到達を伝える石

3月11日には震災から10年の節 地震や津波の被害を受けながら が石碑に残されています。この 歴史があり、市内には、 日本大震災慰霊碑が設置されま トピアセンターの敷地内に、 後世に残すため、 目を迎え、 大震災以前の津波に関する記録 海に面した旭市は、度重なる 繰り返し復興を遂げてきた 地震や津波の記録を いいおかユー 東日本 東

震災からもうすぐ10年が経過

しようとしている中、2月13日